

# AMDA

アジア医師連絡協議会

# 活動の

## 加茂川町職員ら津曲医師とともに

アジアで活動してきたAMDAは、今年からアフリカでも援助を始めた。この動きに合わせ、御津郡加茂川町民生課長補佐の柳原富美男さんと、同町から財団法人に転向中の石坂公宏さん（さ）が七月末、AMDA事務局長の津曲（つまが）兼同医師らとソマリア、ジブチの両国を訪れ、援助活動をつぎつぎに見て、帰国した。

# みる

## 早く医療活動を

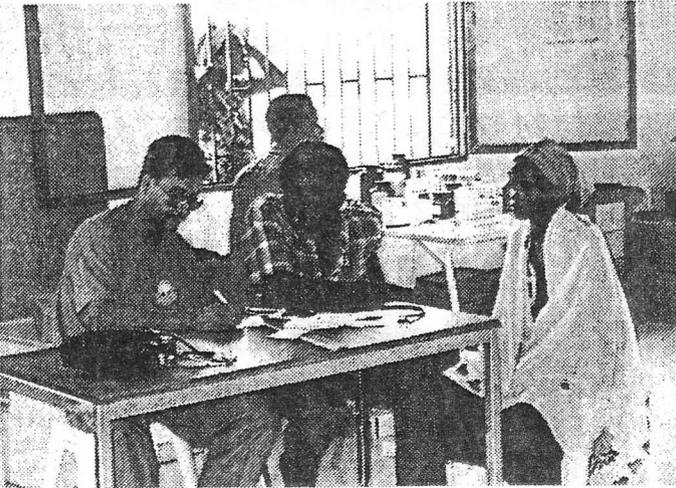
### キャンプ入り阻む地雷原

#### ●一日一回で飯

石坂さんは、ジブチで、一回のご飯の配給だった。ミルクの配給は、一日二回。母乳は出ないらしい。アウルアウサという難民キ

キャンプを訪問した。お昼になると、調理テントの外に列ができた。一日

くと「手首が私の親指よりやや太い程度」だったという。医師は、AMDAの活動拠点の町アリスビエから



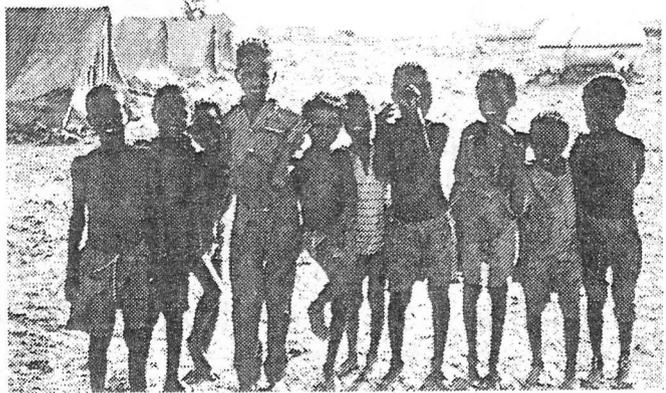
現地の看護士の男性を介して、女性の患者の問診をするAMDAの医師（左端）  
＝ジブチの難民キャンプ・アウルアウサの診療所で、石坂さん写す



内戦で攻撃されて以来、使われていない病棟を視察する柳原さん（右端）。壁には銃弾の跡が残る  
＝ソマリア北部のハルゲイサ中央病院で、石坂さん写す

数人が週一度派遣されている。巡回口以外は、AMDAが養成した難民が「マニュアルを見て診察している。

全員で行ったソマリアのハルゲイサで、津曲医師は住民から「米国人か」と



元氣そうな難民の子どもたちの背後には、寝起きするテントと貯水タンク  
＝ジブチの難民キャンプ・アウルアウサで、石坂さん写す

#### ●水大量に必要

「市内の水は、一易器器入りで約二百円もした」と柳原さんは話す。病院では、そんな水が大量に必要だ。AMDAは、空襲などで設備が破壊されたハルゲイサ中央病院の、水道復旧を援助の柱にしている。

水道は敷地内の貯水槽からひいていたとみられるが、設計図が不明という。滅菌や新たなポンプの手配、配管計画の立案などをやり直す必要があるが、現地で活動できる期間は年末まで。津曲医師は「復旧は順調とは言えないが、多少の延長を考慮に入れてでもやり遂げたい」と述べ、

「われわれはいずれ去る。医療にしても、建設事業にしても、現地の人材育成が肝心」と付け加えた。

## 病院の水道復旧

### 「やり遂げたい」

リランドの首都。八八年から政府側の空爆を受け、戦場だった。米軍は、ソマリア最大勢力のアイディド將軍派との関係が悪化し、市内で人気がないという。

AMDAは郊外の難民キャンプを回れない。市街地以外は地雷が埋まったままで、地雷原に迷い込む恐れがあるからだ。津曲医師は「最大の誤算だが、危険には近寄らない。現地に入っただけで、早く医療活動などをしたい」と残念がる。